

英米の社会と文化I (その1)

2単位 2年 (前期)

吉田 文美・准教授 / 人間文化学科

【授業目的】英語詩を講読し、韻文で書かれたテキストの正確な読解、内容把握の訓練を行う。また、作品の時代や社会状況といったコンテキストについても考慮し、英語詩の評価・批評がおこなえる基礎を養成する。

【授業概要】主に18世紀以降に書かれた英語詩を読む。作品の精読を通じて、英語で書かれた詩に対する理解を深め、作品の背景にある社会・文化状況についても考察する。前期(その1)では、比較的平易な作品を取り上げる。

【キーワード】*poetry in English, reading poems, introduction to English poetry*

【関連科目】『英米文化研究I (その1)』(0.5), 『英米文化研究I (その2)』(0.5), 『英米文化研究II (その1)』(0.5), 『英米文化研究II (その2)』(0.5), 『英米の社会と文化II (その1)』(0.5), 『英米の社会と文化II (その2)』(0.5), 『英米文化研究III (その1)』(0.5), 『英米文化研究III (その2)』(0.5), 『文化批評論 (その1)』(0.5), 『文化批評論 (その2)』(0.5)

【履修上の注意】隔年開講。2011年度は開講する。

【到達目標】

1. 授業で取り上げた詩については、正確な内容把握ができる。
2. 各作品の背景についても考慮して、作品の評価・批評が論理的にできる。

【授業計画】

1. 以下にあげる詩人の作品の中から比較的平易なものを選び、毎回3~5編ずつ講読する予定です。学期中に2回のテストを行います。詳しい日程は最初の授業で指示します。
2. W. H. Auden (1907-73), William Blake (1757-1827), Elizabeth Bishop (1911-79),
3. John Clare (1793-1864), Austin Clarke (1896-1974), e. e. cummings (1894-1962)
4. Emily Dickinson (1830-86), Robert Frost (1874-1963), Thomas Hardy (1840-1928)
5. Seamus Heaney (1939-), Ted Hughes (1930-1998), Patrick Kavanagh (1904-67),
6. John Keats (1795-1821), D. H. Lawrence (1885-1930), Norman Maccaig (1910-1996),
7. Sylvia Plath (1932-63), W. B. Yeats (1865-1939)
8. なお、取り上げる詩人については、変更されることもある。

【成績評価】2回のテストと、授業への出席・参加状況などから総合的に評価す

る。評価のうち、テストを8割、その他を2割程度とする。

【再試験】行わない。

【教科書】授業中に指定します。

【参考書】『リーダーズ英和辞典』またはそれと同等の収録語数を有する英和辞典を使用すること。電子辞書の使用も可。その他は、授業中に必要に応じて指示する。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218385>

【連絡先】

⇒ 吉田 (1N10, 088-656-7124, ayami@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 火曜日 11:55-12:50)

【備考】隔年開講(前期)。2011年度は開講。